

会 議 概 要

| | |
|-------|--|
| 会議の名称 | 平成29年度第2次社会教育中期計画策定にかかる 第3回 第1専門部会（少年教育・青年教育・基盤整備）会議 |
| 開催日時 | 平成29年11月30日（木） 午後 1時30分～ |
| 開催場所 | 湧別町文化センターさざ波 団体研修室 |
| 出席者名 | 部会委員～平野委員、関谷委員、佐藤委員 オブザーバー～宮澤委員長、石垣副委員長 教委～星課長、杉森係長、太田主任 |
| 欠席者名 | 森谷委員、武藤委員 |
| 傍聴人の数 | なし |
| 会議の内容 | (1) 第2次社会教育中期計画第1専門部会 少年教育・青年教育・生涯学習の基盤整備と施設等の整備分野の 推進目標と推進項目について (2) その他 |
| 会議資料 | 会議議案 |
| 会議録 | ■ 有 （ <input type="checkbox"/> 全文筆記 ■要点筆記 ） <input type="checkbox"/> 無 |
| 備考 | |

結果要旨

【少年教育の推進目標と推進項目】について

別紙のとおり

【青年教育の推進目標と推進項目】について

別紙のとおり

【生涯学習の基盤整備と施設等の整備の推進目標と推進項目】について

別紙のとおり

○次回日程について

部会協議は今回で終了。

次回全体会議を12月15日（金）13：30～ 文化センターさざ波にて開催する。

2 (てん末書用紙)

【少年教育の推進目標と推進項目】について

はじめに杉森係長より、内容を説明後、平野部会長により進行

※今回の訂正箇所は下線網掛け(追加)及び取り消し線(削除)
(推進目標と推進項目)

| | | |
|--|---|--|
| 少年教育 推進目標 | | 少年は町の未来 夢に向かって力をつけよう |
| 項 目 | | 課題解決のための方策 |
| 人、 自然、 ふるさと から学び、 地域と 共に生きる | 学習 機 会 の 提 供 | <ul style="list-style-type: none"> ●地域の特性を生かした数多くの体験学習活動の機会を提供し、豊かな人間性の養成を図る。 ●年に一度は町内の子ども全員が集まる機会を提供し<u>充実を図る。</u>する。 |
| | 活 動 等 の 支 援 | <ul style="list-style-type: none"> ●子ども会や青少年指導センターを支援する。 ●異世代や異年齢との交流機会の拡充により、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、地域教育力の向上を図る。 |
| | 学 習 環 境 の つ く り | <ul style="list-style-type: none"> ●小学生や中学生のリーダー養成と活用を図る。 ●地域の成人指導者の活用を図る。 ●小学生～中学生～高校生～青年が連携できるよう、青年層からボランティアを積極的に受け入れ、次世代につながる指導者の養成を図る。 |
| | ネ ッ ト ワ ー ク の 連 携 | <ul style="list-style-type: none"> ●より学習効果が得られるよう学校と社会教育が連携・融合した事業を推進する。 ●小中学生の学力・体力向上に向けた生活習慣改善の取り組みに協力する。 ●児童センターをはじめ関係機関との連携を図る。 ●<u>コミュニティスクールに社会教育が積極的に参加協力を行う。</u> |

平野：推進目標については、いい目標なので変更する必要はないと思う。

宮澤：この目標でよいと思います。

平野：「年に1度は町内の子ども全員が集まる機会を提供する」の提供するでは弱いのではないか。拡充等の表現ではどうか。

宮澤：全町の5年生が一同に集まる機会が出来た。もう一歩進んだことが出来ないか。

石垣：子ども全員が集まるにはハードルが高い。例えば、現在は5年生が常呂に研修行っているが、町内でのキャンプや湧別川の学習など、町内で出来ることが色々あるのではないか。

関谷：5年生の宿泊研修を全町の学校が合同でやっている市町村は道内には無い。

平野：もう一歩進んだ所を目指して、「提供し、充実を図る」という表現とする。

平野：子どもが減っている中、学校間の連携が必要になってくる。例えば、部活動の連携や統合を社会教育委員が中に入って進めることが出来ないか。

石垣：湧別中にはサッカーをやりたい子どもがいるのにサッカー部が無いが、上中にはサッカー部がある。誰かが旗振りをしなければいけない。社会教育委員が出来ることは、進めるべきだと思う。

平野：推進目標に直接表現することは難しいので、別の表現方法はないだろうか。

関谷：芭露学園では、コミュニティスクールの中にたくさんの地域の人、社会教育委員や民生委員等の方に入ってもらい、学校運営に関する意見を頂きたいと考えている。部活動についても、他の学校との連携等の意見を頂戴したいと思っている。

平野：連携・ネットワークの方策に「コミュニティスクールに社会教育が積極的に参加協力を行う」の旨の内容の一文を入れる。

【青年教育の推進目標と推進項目】について

| | | |
|-----------------------|----------------------------------|--|
| 青年教育 推進目標 | | 青年は町の原動力 自らを磨き高めよう |
| 項 目 | | 課題解決のための方策 |
| 人、 自然、 地域と共に生きる | 学習 機 会 の 提 供 | <ul style="list-style-type: none"> ●各種研修会等の情報を提供し参加を奨励する。 ●成人式を開催し、新成人の社会人としての意識の高揚を図る。 ●高校生の社会参加活動を奨励・支援する。 |
| | 等 動 活 | <ul style="list-style-type: none"> ●青年団体協議会が行う自主活動を後援し適切に評価、広く周知に努める。 |
| | 学習 環 境 の つ く り | <ul style="list-style-type: none"> ●各青年組織のリーダーが集い、学習する機会と組織化を支援（まちづくり青年会議の創設）。 ●若い女性の社会参加を図る。 ●団体リーダーの養成と活用を図る。 ●地域活動への参加に向けて意見交換の機会を作る。 |
| | ワ ネ ッ ト ・ ク ・ | <ul style="list-style-type: none"> ●各青年組織の交流を奨励し、連携・ネットワーク化を促進する。 |

関谷：社会教育では何歳から何歳までが青年の定義なのか。学校では13歳から20歳までで、20歳から成人という意識を持っている。

杉森：少年と青年、青年と成人の区切りははっきりしていない。重なっている。

平野：個人的に、高校生から結婚する・子どもが生まれるまでが青年。高校生は少年と重なっているし、40代でも結婚していなければ青年というイメージがある。

平野：昔、上湧別では各青年組織の集りが年に1度あって、異業種の情報交換・交流の場になっていた。農協、漁協、商工会、青年団などを集めて交流を行う機会を作りたい。

4 (てん末書用紙)

【生涯学習の基盤整備と施設等の整備の推進目標と推進項目】について

| | | |
|------------------------|------------------|--|
| 生涯学習の基盤整備推進目標 | | 生涯学習の基盤整備は社会教育のかなめ、いつでも、どこでも、だれでも参加し楽しもう |
| 項 目 | | 課題解決のための方策 |
| 人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる | 学習体制整備 | <ul style="list-style-type: none"> ●住民の様々な学習活動がより効果的になるよう関係機関や団体との連携強化に努めます。 ●総合的に生涯学習を推進するための体制整備に努めます。 |
| | 施設整備・活用・連携 | <ul style="list-style-type: none"> ●住民のニーズを踏まえながら、利用しやすい施設の整備・機能充実や効果的な管理運営に努めます。 ●施設間の連携やネットワーク化により、学習サービスの向上に努めます。 |
| | 学習情報の収集提供相談体制の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ●住民の学習活動を支援するため、生涯学習情報の収集・提供に努めます。 ●多様化する学習ニーズに応じ、住民の学習活動が円滑に行われるよう相談体制の充実に努めます。 |
| | 指導者の養成・活用・団体活動支援 | <ul style="list-style-type: none"> ●住民の多種多様な学習ニーズに対応するため、様々な分野から指導者を発掘、養成し、人材の活用に努めます。 ●生涯学習振興奨励事業補助金活用により、サークル等が自主的に学習活動を行う支援に努めます。 ●ボランティアを育成するとともに、活動の支援に努めます。 |
| | ネットワーク | <ul style="list-style-type: none"> ●社会教育委員、スポーツ推進委員、図書館協議会委員、各団体、町各部局、地域、学校との連携強化とネットワーク化を図り、生涯学習活動の推進に努めます。 ●生涯学習の情報を収集、データベース化し、生涯学習ガイドブック等の作成を検討します。 |

宮澤：ボランティア団体はどんな団体があり、それぞれどんな活動をしているのかわからない。今後、把握する必要がある。

石垣：一覧を作成し、だれでも気軽に参加できる様にしたらどうか。

宮澤：情報を収集し、上湧別で作成していた「生涯学習ガイドブック」の様な冊子を作成し、あらゆる世代に向けた情報提供を行っていきたい。

平野：まず情報を収集し、データベース化することを方針としたい。将来的に「生涯学習ガイドブック」等を作成することを検討することとしたい。

また、集めた情報を湧く湧く等で少しずつ公開することを検討していきたい。

その他

関谷：毎年、社会教育委員の会議で示される単年度事業計画・実績の表に中期計画の推進目標、推進項目を記載したらどうか。いままでの表では、どの事業がどの推進目標、推進項目に当てはまるか不透明の部分があった。目標と事業の結びつきをわかりやすいようにしたら、中期計画の目標が事業計画に活かされていると感じられるのではないか。

星：単年度事業計画を作成する際に中期計画推進目標との関わり、結びつきをわかりやすく示すようにしたい。

宮澤：最近おいしくない給食が全国で話題となっている。

平野：多少給食費が高くなっても、地産地消で地元のを食べさせてあげたい。

宮澤：一般町民に給食を食べてもらう機会・イベント等ができないか。

平成29年度

第2次湧別町社会教育中期計画策定にかかる
第3回 第1専門部会（少年教育・青年教育・生涯学習基盤） 会議

と き 平成29年11月30日（木）
午後1時30分～
ところ 文化センターさざ波 団体研修室

<会議日程>

1. 開 会
2. 部会長あいさつ
3. 議 題
 - 第2次社会教育中期計画専門部会
少年教育・青年教育・生涯学習基盤分野
 - ・推進目標について
 - ・課題解決のための方策について
4. その他
 - 次回日程の確認
5. 部会長あいさつ
6. 閉 会

<第1専門部会構成員>

部会長 平野寿雄
部 員 関谷正樹、(森谷和洋)、佐藤あけみ、武藤智和
委員長 宮澤 道 副委員長 石垣誠一
事務局 星義孝、杉森伸一、太田雅史、野村亮太

第2節 少年教育の現状と課題・推進目標・推進項目

【少年教育の現状と課題】

現在の少年を取り巻く社会、家庭環境は、複雑で多岐にわたっております。

多様化する要因として高度情報化社会があげられます。室内でのゲームやスマートフォン等の長時間利用が進み、友達同士で外に遊びに行く機会は減少しており、顔を合わせてのコミュニケーションが希薄になっています。外で遊ぶこと等の体験不足により、ルールやマニュアルどおりにすることは容易に出来ますが、臨機応変の応用力が乏しく、良い悪いの境を判断する能力が非力ゆえに問題となるケースが見受けられます。

また、少年団活動や部活動に加入している子どもは基礎体力や運動能力に比較的優れていますが、日頃運動をしていない子どもは、十分な体力が備わっていません。ボールを投げること、走ること等の基本的な運動能力が低く、体力の2極化が進んでいます。

このように少年教育の課題として、自然体験や異世代間交流、仲間づくり等の様々な体験活動の提供を求められています。しかし、近年子どもたちは、少年団、部活動、塾等で日々忙しいなど、体験や交流・仲間づくり事業を実施しても参加者数が少なく事業が成立しない状況も見られることから、家庭や学校の理解、連携が欠かせない問題であると考えられます。

現在の取り組みとして、青少年指導センターでは中学生と高校生のリーダークラブを組織し、小学校高学年を対象に子ども会リーダーの養成を目的としたリーダー研修会を夏と冬に行っています。また、子ども会対抗の各種スポーツ大会においては、既存の単位子ども会のほかに湧別地区子ども会の連合組織「湧別地区サポート協議会」を加えてチーム編成するなど、湧別地区からも参加しやすい工夫をしながら実施しています。

しかし、これらは合併前からの継続事業であり、地区ごとの参加者数の偏りが見受けられることから、リーダー・指導者の養成や小学生から高校生・青年までのつながりを視野に入れた事業の再評価や見直しを積極的に進めなければなりません。

＜今後の課題＞

- 将来において豊かな人間性を育み、コミュニケーション能力を重視し、達成感の中から学ぶ様々な体験活動の提供を行う必要があります。
- 次世代を担うリーダー・指導者活動の支援・育成が必要です。
- 小学生から高校生・青年まで連携した事業の展開が必要です。
- 現在の事業に新たな取り組みの導入及び事業の見直しの検討が必要です。

(推進目標と推進項目)

| | |
|--------------|----------------------|
| 少年教育 推進目標 | 少年は町の未来 夢に向かって力をつけよう |
|--------------|----------------------|

| 項 目 | 課題解決のための方策 |
|------------------------|---|
| 人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる | 学習機会の提供 <ul style="list-style-type: none"> ● 地域の特性を生かした数多くの体験学習活動の機会を提供し、失敗を恐れず、失敗から学ぶ多くのことを経験する機会を提供することにより、豊かな人間性の養成を図る。 ● 年に一度は町内の子ども全員が集まる機会を創設提供する。 (⇒5年生宿泊研修会の全校実施が実現したため) |
| | 活動等の支援 <ul style="list-style-type: none"> ● 子ども会や青少年指導センターを支援する。 ● 異世代や異年齢との交流機会の拡充により、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、地域教育力の向上を図る。 |
| | 学習環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ● 小学生や中学生のリーダー養成と活用を図る。 ● 地域の成人指導者の活用を図る。 ● 小学生～中学生～高校生～青年が連携できるよう、青年層からボランティアを積極的に受け入れ、次世代につながる指導者の養成を図る。 |
| | 連携・ネットワーク <ul style="list-style-type: none"> ● より学習効果が得られるよう学校と社会教育が連携・融合した事業を推進する。 ● 小中学生の学力・体力向上に向けた生活習慣改善の取り組みに協力する。 ● 児童センターをはじめ関係機関との連携を図る。 |

第3節 青年教育の現状と課題・推進目標・推進項目

【青年教育の現状と課題】

成人式の「20歳の主張」において活躍を誓う姿が象徴するように、青年は地域のリーダーとして大切な役割を担っています。

近年、ボランティア等の社会貢献活動への参加意識は高まっていますが、依然として参加を敬遠する青年がいるのも事実です。実際に参加してみないとその面白さや充実感を味わうことや、経験を得ることが出来ません。社会教育の分野に限らず若い力が必要な場面はたくさんあり、個人で参加できる町民大学や成人文化教室など様々な学習を得る機会があるので、青年の事業参加についてもアプローチするとともに、参加を促すために青年の意見を取り入れ、若い力を活用していくことが町の発展に繋がると考えられます。

また、関係団体の連携については農協や漁協、商工会には青年部があり、それぞれ活動している現状であるため、職業間を越えた仲間作りが出来れば、新しい発想や事業に発展する可能性があります。

現在の取り組みについては、青年団体協議会に対し、活動場所として青年会館の提供や、青年団員拡大や主催事業の広報活動等、地元の青年が活躍できる地域に根ざした活動の支援を行っております。

これらの青年組織と連携を図りながら、同じ地域に住む様々な職業・立場を生きる青年が交流できる機会の提供が求められています。

<今後の課題>

- 青年同士の仲間づくりや集う場の提供が必要です。
- 活動機会が少ないことから、青年が活躍する機会の提供が必要です。
- 青年が気軽に意見を言える機会を設け、活動に積極的に関わる人材の発掘・育成が必要です。

(推進目標と推進項目)

| | |
|--------------|--------------------|
| 青年教育 推進目標 | 青年は町の原動力 自らを磨き高めよう |
|--------------|--------------------|

| 項 目 | 課題解決のための方策 | |
|------------------------|------------|---|
| 人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる | 学習機会の提供 | <ul style="list-style-type: none"> ● 各種研修会等の情報を提供し参加を奨励する。 ● 成人式を開催し、新成人の社会人としての意識の高揚を図る。 ● 高校生の社会参加活動を奨励・支援する。 |
| | 活動等の支援 | <ul style="list-style-type: none"> ● 青年団体協議会が行う自主活動を支援する。適切に評価し、広く周知する。 ● 地区研修事業等への参加を奨励する。 |
| | 学習環境づくり | <ul style="list-style-type: none"> ● 各青年組織のリーダーが集い、学習する機会と組織化を支援（まちづくり青年会議の創設）。 ● 若い女性の社会参加を図る。 ● 団体リーダーの養成と活用を図る。 ● 地域活動への参加を奨励する。 |
| | 連携・ネットワーク | <ul style="list-style-type: none"> ● 各青年組織の交流を奨励し、連携・ネットワーク化を促進する。 |

第10節 生涯学習の基盤整備と社会教育施設等の整備の 現状と課題・推進目標・推進項目

【生涯学習の基盤整備と施設等の整備の現状と課題】

生涯にわたってあらゆる機会や場所において、様々な学習活動がより効果的になるよう各関係機関・団体との連携強化に努めてきました。

また、地域の施設を拠点とし、地域ぐるみで生涯学習を推進するサークル等が自主的に学習活動を行うための支援、生涯学習情報誌の発行や相談体制の充実を図ってきました。

現在、生涯学習施設として、文化センター（2施設）、ふるさと館JRY、郷土館、図書館（2施設）、総合体育館（2施設）、野球場（2施設）、ゲートボール場（2施設）、パークゴルフ場、スキー場などの施設があり、多くの町民に利用されています。

しかし、昭和50年代から60年代にかけて建設された施設については、老朽化が進み、改修工事や修繕を必要とする施設が多く、計画的に改修工事等を行っていますが、まだ整備が必要な施設があります。

施設の維持管理については、民間の能力を活用しつつ、住民サービスの向上や経費の削減を図ることを目的に指定管理者制度（ふるさと館JRY、図書館を除く）を導入し、利用者の視点に立った施設の整備充実を図るため、指定管理者と協議しながら、サービスの向上に努めてきました。

また、町内全ての公共施設等における将来の基本的な管理方針を定める「公共施設等総合管理計画」が平成29年3月に策定されたことから、施設の統廃合も含めた具体的な実行スケジュールが提示されました。この計画を踏まえ、今後も町民が生涯にわたって、日常生活の中で目的に応じて気軽に施設の利用ができるよう、施設の適正な維持管理や整備の充実に努めます。

＜今後の課題＞

- 各関係機関・団体との相互の連携・協力を図る必要があります。
- 生涯学習情報の収集・提供、相談体制の充実に努める必要があります。
- 住民の自主活動に対する支援体制の整備が必要です。
- 必要に応じ施設の改修等に努める必要があります。

(推進目標と推進項目)

| | |
|---------------|--|
| 生涯学習の基盤整備推進目標 | 生涯学習の基盤整備は社会教育のかなめ、いつでも、どこでも、だれでも参加し楽しもう |
|---------------|--|

| 項目 | 課題解決のための方策 |
|------------------------|--|
| 人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる | 学習推進体制整備 <ul style="list-style-type: none"> ●住民の様々な学習活動がより効果的になるよう関係機関や団体との連携強化に努めます。 ●総合的に生涯学習を推進するための体制整備に努めます。 |
| | 施設整備・活用・連携 <ul style="list-style-type: none"> ●住民のニーズを踏まえながら、利用しやすい施設の整備・機能充実や効果的な管理運営に努めます。 ●施設間の連携やネットワーク化により、学習サービスの向上に努めます。 |
| | 学習情報の収集提供 ・相談体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> ●住民の学習活動を支援するため、生涯学習情報の収集・提供に努めます。 ●多様化する学習ニーズに応じ、住民の学習活動が円滑に行われるよう相談体制の充実に努めます。 |
| | 指導者の養成・活用 ・団体の活動支援 <ul style="list-style-type: none"> ●住民の多種多様な学習ニーズに対応するため、様々な分野から指導者を発掘、養成し、人材の活用に努めます。 ●生涯学習振興奨励事業補助金活用により、自治会やサークル等が自主的に学習活動を行う支援に努めます。 ●ボランティアを育成するとともに、活動の支援に努めます。 |
| | 連携・ネットワーク <ul style="list-style-type: none"> ●社会教育委員、スポーツ推進委員、図書館協議会委員、各団体、町各部局、地域、学校との連携強化とネットワーク化を図り、生涯学習活動の推進に努めます。 |